

## I 研究の概要

### 1 研究主題

# 人とのかかわりを大切に、進んで行動できる児童の育成

～E S Dの視点に立った、教育活動「ふるさと甚目寺 かかわる つたえる つながる」を通して～

### 2 主題設定の理由

E S Dとは“Education for Sustainable Development”の頭文字をとったもので、「持続可能な開発のための教育」と訳される。従来型の開発は、物質的な豊かさをもたらす一方で、環境破壊、食料問題、人権侵害などの多くの問題を引き起こしてきた。これらの深刻な環境問題や社会問題により持続不可能と考えられる現在の状況では、持続可能な社会へ構造を変えようとする人材の育成が必要である。つまりは、世界の諸問題に目を向け、それらを改善するために、まずは自分の身近なことで何ができるかを考え、他者に伝達し、他者と協力しながら、実際に行動に移すことができることが大切になってくる。

本校では、E S Dの研究を始めて本年度で9年目を迎える。E S Dの研究に取り組む以前から、人権教育をベースにして、特別活動、生活科、総合的な学習の時間を利用して、縦割り活動に取り組んでいた。しかし、それぞれが単発的な活動になっており、子どもたち同士のつながりは満足できるものではなかった。また、地域の子ども会組織が、2010年度（平成22年）になくなり、地域の行事にかかわる機会が減っている状況であった。そのため、子どもたちは地域とのつながりが薄れ、地域の「よさ」に気付く機会がなくなっており、また、教師側も地域のよさを感じ取る機会を積極的に設けてはいなかった。そこで、E S Dで自分の暮らす地域に目を向け、地域とのつながりの中で子どもたちに生きる力を育みたいと考えた。

これまでの研究の経過は以下の通りである。

- 1年目(平成22年度) … 県総合教育センターでの研修を通して、E S Dの理念について学ぶ。
- 2年目(平成23年度) … 従来の活動を大切にしながら、それぞれの活動のつながりを分かりやすく表したE S Dカレンダーの作成を行う。
- 3年目(平成24年度) … 「かかわる」「つたえる」「つながる」をキーワードにE S D活動の見直しを行う。
- 4年目(平成25年度) … 話し合い活動に着目し、進んで活動に取り組めるようにシンキングツールを取り入れる。本校の話し合いの流れ「傾聴→仕分け→高め合い」が確立する。
- 5年目(平成26年度) … 道徳の授業との連携を強化し、道徳的心情を高めることに取り組む。「人の思い」に着目する。
- 6年目(平成27年度) … 本校の話し合いの流れの中の「高め合い」に着目し、シンキングツールを用いて仕分けされた意見の分析の仕方についての実践を行う。
- 7年目(平成28年度) … コミュニケーションスキルの活用に関心を当て、特に国語科と学級活動においてE S Dとの連携を図る。国語科では取材活動に向けての単元構成の見直し、学級活動は、各時期のE S Dに必要なソーシャルスキルトレーニングを行う。

本研究では、本校E S D活動のキーワード「かかわる つたえる つながる」を次のように捉え、

1年間の活動サイクルとした。

かかわる…出前授業や教科の学習を通して課題意識をもち、取材や探検活動を行う  
つたえる…取材やたんけんのまとめをして発表会を行う  
つながる…学習したことをもとに自分たちが地域に向けてできることを考え、実行する

本研究初年度（平成29年度）は、行動できる子どもの育成に焦点を当て、E S D活動に積極的にかかわることができることを目指した。そこで、全ての児童が授業に参加できるように授業の在り方を見直し、授業の視覚化・焦点化に取り組んだ。それに加え、学校・教室環境の見直し、各教科とE S Dとの連携を図った授業づくりを進めた

本研究2年目となる本年度は、本校E S Dの原点を見つめ直し、本校のE S D活動テーマである「ふるさと甚目寺 かかわる つたえる つながる」から、今一度コミュニケーションを行う力に焦点を当てていきたいと考えた。授業においては、発表のような一方向のコミュニケーション力だけではなく、双方向のコミュニケーション力を育むことにした。つまり、発表されたものを聞き、それに対して自分の疑問に思ったことをたずねたり、自分の考えを述べたりするやり取りにおけるコミュニケーション力の育成を目指した。そのためにも、学年間のつながりを意識しながら、コミュニケーション力の育成を図ることにした。そして、本校独自の「聞く・話す・話し合い能力表」を各学年で見直し、それぞれの発達段階における目標を再考し、その目標を子どもたちに意識させ話し合い活動を進めた。また、SDG s（Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標）の考えをE S Dカレンダーに組み入れた授業と活動に取り組んだ。SDG sを意識させることで、自分たちの学習が甚目寺の現在や未来にかかわっていることを意識させ、ふるさと甚目寺の将来について積極的に考え、かかわっていかこうとする児童の育成を目指した。

### 3 目指す子ども像

- ・ 課題を発見し、解決しようとする児童
- ・ お互いを認め、尊重し合うことができる児童
- ・ 対象に興味関心をもち、主体的にかかわる児童
- ・ 自分の考えや思いを伝えることができる児童
- ・ 話し合いを深め、よりよい方向に行動できる児童

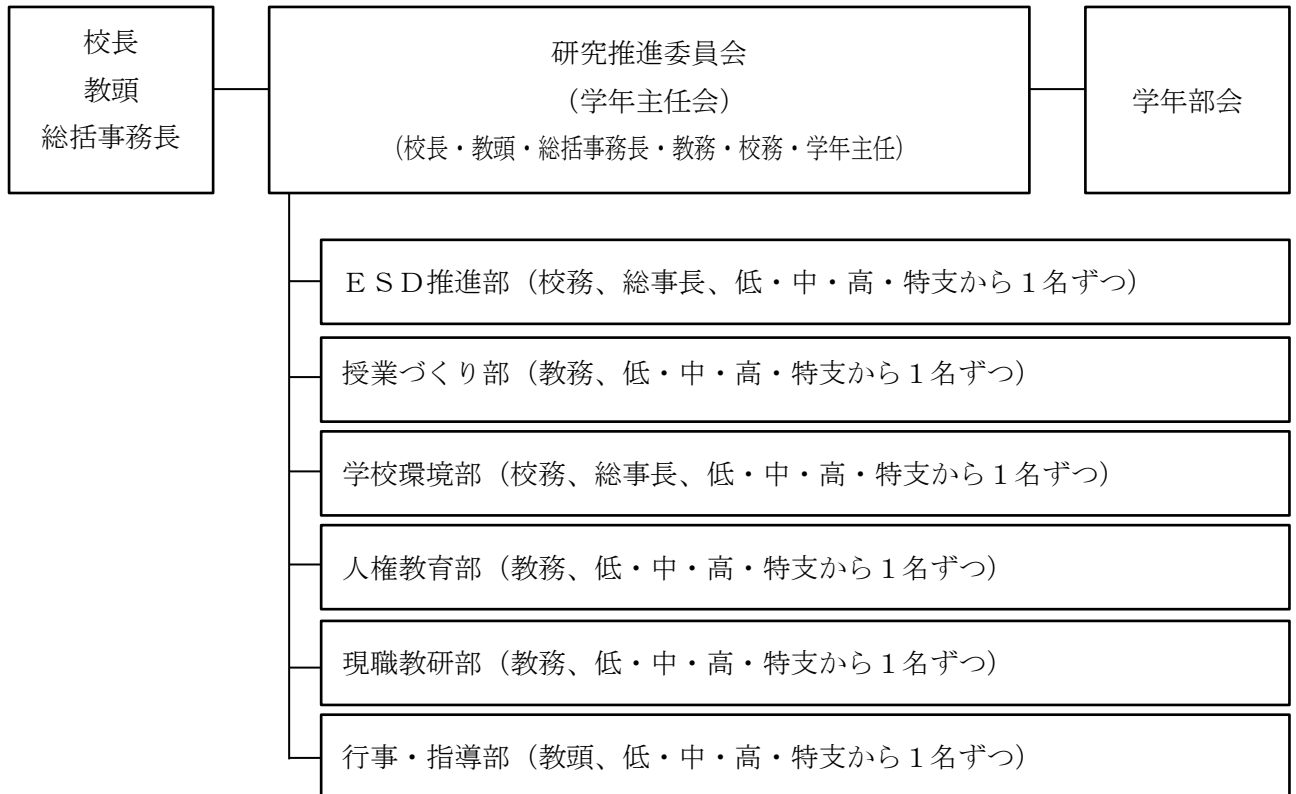
### 4 研究の仮説

#### 研究仮説

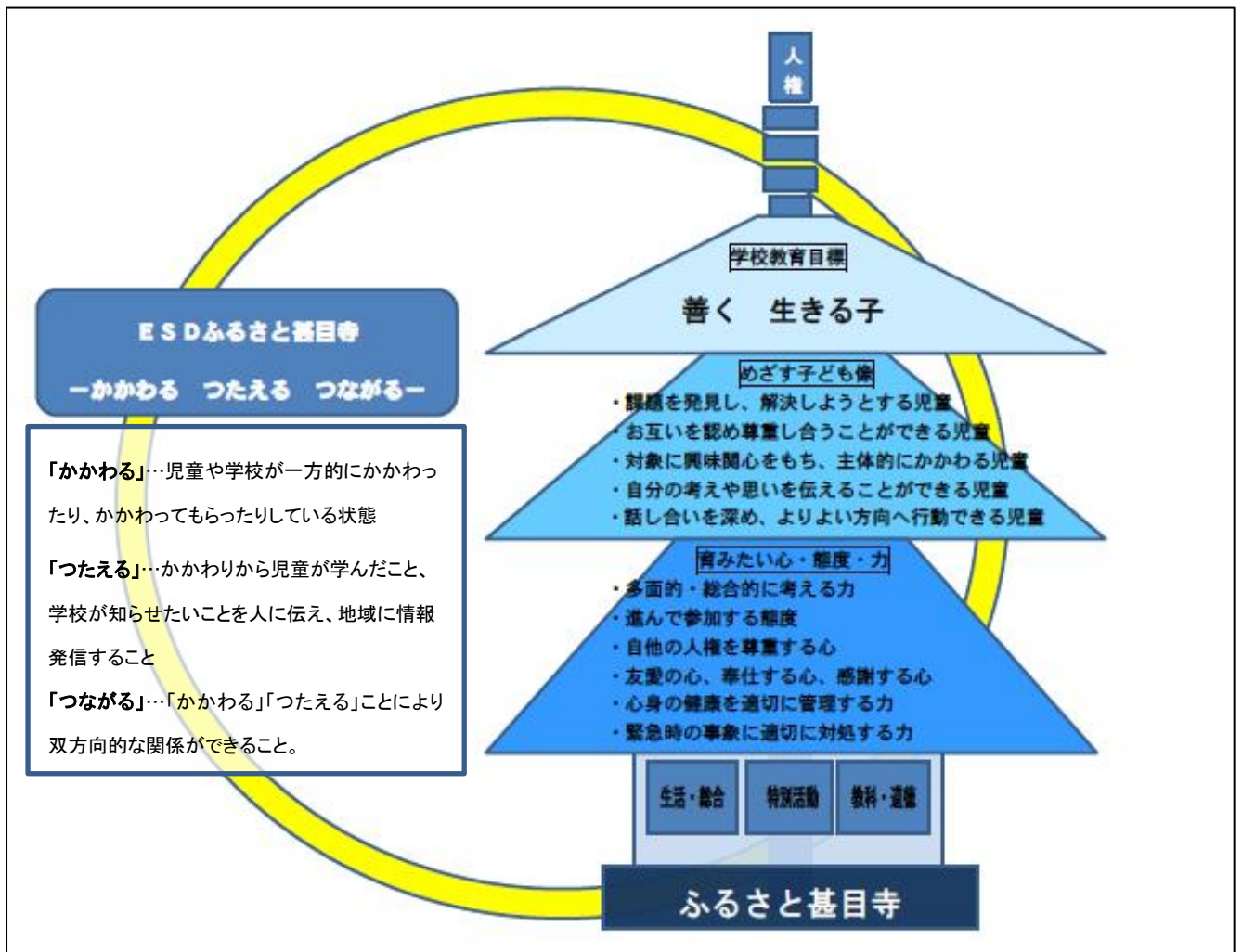
仮説1 学習課題に対して「かかわる」「つたえる」「つながる」活動を単元に組みこめば、コミュニケーションの場面において自分の疑問や考えを述べるようになるであろう。

仮説2 地域の学習を通して、ふるさと甚目寺への関心を高め、取材活動や研究発表の場面で体験的に地域とかかわる機会を設ければ、コミュニケーションにおける基礎を培うことができるであろう。

## 5 研究の組織



## 6 研究構想図



## 7 研究の手だて

### (1) 仮説Ⅰに対しての手だて

- ・ 「聞く・話す・話し合う能力表」を見直し、各学年における到達目標を意識させた上で、往復のやり取りを目指して、各学年で話し合い活動に取り組みさせる。
- ・ 単元計画を見直し、単元内の各授業において振り返り活動を設定し、記述させたり、類似問題を解かせたりするなど、学年や教科に応じた振り返りの方法を工夫する。

### (2) 仮説Ⅱに対しての手だて

- ・ SDGs の考え方を ESD カレンダーに組み入れた授業づくりと活動を進める。
- ・ 取材活動や出前授業、発表といった体験的な学びの場を繰り返し設定することで、実践的なコミュニケーション力を養う。

### ※SDGs (Sustainable Development Goals) について

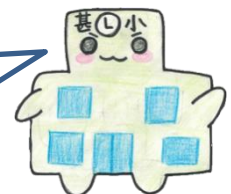
SDGs とは 2015 年 9 月の国連サミットで採択された、途上国のみならず、先進国も取り組む 2016 年から 2030 年までの国際的な目標です。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



2015年に終了した「ミレニアム開発目標 (MDGs)」の後継としてつくられました。MDGs が途上国の開発を主な目的としていたことに対して、SDGs は、気候変動やエネルギー、健康や雇用といった先進国でも深刻化している課題なども取り上げており、先進国も含めてすべての国を対象としていることが特徴の一つです。今では、多くの企業でも SDGs に向けた取組が進められているんです。



甚小マスコットキャラクター  
『じんちゃん』